

**がん薬物療法
副作用管理マニュアル**監修 吉村 知哲 田村 和夫
編集 川上 和宜 松尾 宏一 林 稔展
大橋 貴嗣 小笠原 信敬**重症度の適切な評価、原因薬剤の
中止や減量、支持療法の検討に
役立つ情報をコンパクトに凝縮!**

頻度の高い副作用に関して、1) 原因となりうる抗がん薬、2) 評価のポイント、3) 抗がん薬以外の原因を考慮すべき疾患・病態、4) 対策、5) 症例——を解説。

医学書院

がん薬物療法副作用管理マニュアル

吉村知哲、田村和夫＝監修

川上和宜、松尾宏一、林 稔展、大橋養賢、小笠原信敬＝編

本体 3,800 円＋税／B6 変判・314 頁／医学書院／2018

重症度の適切な評価、原因薬剤の中止や減量、支持療法の検討に役立つ情報をコンパクトに凝縮！ 発熱、手足症候群、高血圧など、がん薬物療法時に頻度の高い副作用を対象に、①原因となりうる抗がん薬、②評価のポイント（症状・検査値、問診、重症度）、③抗がん薬以外の原因を考慮すべき疾患・病態、④対策、⑤症例 2 例（抗がん薬の副作用が疑われた症例、それ以外の原因が疑われた症例）のパターンで解説。

**がんエマージェンシー
化学療法の有害反応と緊急症への対応**

Oncologic Emergency

中根 実

**がん緊急症の
なぜ？がわかる**

化学療法実施時やがんの進行に伴って想定される有害事象について、その発生要因・機序から予防、発症後の実践的な対応までをわかりやすく解説。がん診療チームの知識のブラッシュアップに役立つ 1 冊。

医学書院

がんエマージェンシー

化学療法の有害反応と緊急症への対応

中根 実＝著

本体 4,000 円＋税／B5 判・320 頁／医学書院／2015

がん診療のなかで発生する高度な有害事象「がん緊急症」。その重症化を防ぐためには、前段階での兆候を的確にとらえ、チームによるすばやい対応が求められる。本書は、化学療法実施時や、がんの進行に伴って想定される有害事象の発症要因・機序から、予防、発症後の実践的な対応までをわかりやすくまとめている。山口典宏先生の『『オンコロジック・エマージェンシー』から診断する、初期治療を行う』（p.1204）と併せて読みたい。

**よくわかる
血液内科**

萩原 将太郎

「推薦します」

監修 徳田 安孝

ケース問題から始まり、わかりやすい図表と解説で、血液病の基礎をまじく解説する。最新の検査法と治療法、最新の分子生物学の最新知見がイラストで解説されており、これ以上わかりやすくするのには無理かもしれない。血液病の専門家も多く、ポイントをおさえた解説もわかりやすいです。最新の検査法と治療法、最新の分子生物学の最新知見がイラストで解説されており、これ以上わかりやすくするのには無理かもしれない。血液病の専門家も多く、ポイントをおさえた解説もわかりやすいです。

医学書院

レジデント・
ジェネラリスト
のために**よくわかる血液内科**

萩原将太郎＝著

本体 3,800 円＋税／A5 判・284 頁／医学書院／2018

本誌（『JIM』）連載を増補し書籍化したもの。「難しい」「見逃せば重篤な状況に陥ってしまう」——できれば血液内科を避けて通りたいあなたと一緒に、代表的な症例を推理しながら、臨床血液学の基礎を学びます。①血液を理解して、患者さんにわかりやすく説明できる、②鑑別診断ができる、③初期対応ができ、必要な場合には適切に専門医につなげられる、これが本書の目標です。悪性リンパ腫（p.1234）はもちろん、オンコロジック・エマージェンシーや発熱性好中球減少症（p.1206）も取り上げています。